

Program

ハイドン (1732-1809)

弦楽四重奏曲第 78 番 変ロ長調 「日の出」 作品 76-4 Hob.III-78

- 第 1 楽章 Allegro con spirito
- 第 2 楽章 Adagio
- 第 3 楽章 Menuet: Allegro
- 第 4 楽章 Finale: Allegro ma non troppo

violin 渡辺美和 前田侑乃 viola 飯田絢子 cello 九十九華子

ボッケリーニ (1743-1805)

弦楽五重奏曲ホ長調 作品 11-5 G275 より第 3 楽章 メヌエツト

クライスラー (1875-1962)

愛の喜び

ドヴォルザーク (1841-1904)

スラヴ舞曲第 10 番 作品 72-2

violin 井野川智美 門田瑠美乃 viola 林波 cello 新井みつこ *

- intermission -

チャイコフスキー (1840-1893)

弦楽セレナード ハ長調 作品 48

- 第 1 楽章 Andante non troppo - Allegro Moderato
- 第 2 楽章 Moderato (Tempo di valse)
- 第 3 楽章 Larghetto elegiaco
- 第 4 楽章 Andante - Allegro con spirito

1st violin 岡部綾子 戸村実咲 井野川智美 坂下夏淑 門田瑠美
2nd violin 渡辺美和 前田侑乃 松井亜佐子 窪川真衣子
viola 飯田絢子 関明子* 林波
cello 新井みつこ* 九十九華子
contrabass 千木良縁

* 賛助

Program note

ハイドン：弦楽四重奏曲第 78 番

交響曲の父、弦楽四重奏曲の父等と称されるオーストリアの作曲家。この作品は、ハイドンが 64 歳に作曲された曲で、現ドイツ国歌の元となる曲と同時期に作曲されました。太陽が昇って来る様を連想させる事から「日の出」と言う副題が付きましたが、このコンサートのオープニングでもあり、コロナ禍で休止していたオーケストラマミュースの再始動の幕開けとして相応しい一曲です。

ボッケリーニ：メヌエツト

皆様が 1 度は耳にした事のあるこの曲。タイトルに作曲家の名前が付くほど有名ですが、イタリアのボッケリーニの作品です。チェロ奏者としても一流だった彼は、弦楽四重奏にチェロを 1 本加えた弦楽五重奏曲を多く作曲しました。本日は、コントラバスを加えての五重奏です。

彼はハイドンの曲調に似た作品を作る事から「ハイドン夫人」とも呼ばれていたそうです。是非一曲目の「日の出」と聞き比べてみてください。

クライスラー：愛の喜び

「愛の悲しみ」「美しきロスマリン」と共に愛の 3 部作として有名なこの曲は、オーストリア出身の名バイオリニスト、クライスラーが作曲しました。彼は自分の作品を正当に評価して欲しくて、昔の実在する作曲家が作ったと「ウソ」をついて作品を発表していたようです。

「2 拍目をちょっと先取り、3 拍目と間を作る」ウィンナーワルツのリズムがポイントです。伴奏とメロディがワルツを踊っているような、対話しているような掛け合いをお楽しみ下さい。

ドヴォルザーク：スラヴ舞曲第 10 番

ドヴォルザークは幼少期にバイオリンを習い、青年になってヴィオラ奏者としてオーケストラに所属していました。作曲に専念するためにオーケストラを辞めてから、数々の賞を取ったり、奨学金をもらったりと作曲の才能が開花します。とある省の審査員として居たブラームスに気に入られ、出版社へ紹介されます。そこから依頼をされて作る事になったのが、このスラヴ舞曲です。

故郷チェコの民謡を元に作られたこの曲は「神々しく、この世ならぬ自然さ」と絶賛されて、ドヴォルザークの名前がヨーロッパ中に広まりました。

チャイコフスキー：弦楽セレナーデ

ロシアの作曲家チャイコフスキーは、モーツァルトに大変な愛着があり、モーツァルトを意識した作品を残したいと思っていたようです。モーツァルトのセレナーデと言えば、「アイネクライネナハトムジーク」が有名ですが、彼の様なセレナーデが書きたい！という想いが募って、この作品が完成しました。ロシアの作曲家でありながら、ヨーロッパの雰囲気を感じられる名曲です。

第一楽章では至る所に「ドレミファソラシド」が聞こえて来ますが、単純なこの音階が味わい深く聞こえる所がチャイコフスキーらしいソナタになっています。第二楽章はワルツで、初演の際にはアンコールにこれを再度演奏した程人気になった曲です。第三楽章はエレジー。中間部の主題の長調が印象的な一曲です。第四楽章は様々なロシアの主題を用いたソナタで、第一楽章に回帰して、曲のまとまりを作っています。

(戸村実咲)

ご挨拶

本日はオーケストラ Mumuse メンバーによる「弦楽アンサンブルの夕べ」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

この現在の状況の中、今日この場にお越しくださり、音楽と空間を共有できる喜びは言葉では言い表せません。

当オーケストラは「ママになっても、育児をしながらでも演奏活動を続けたい」という思いを持ったメンバーが集まり、プロフェッショナルなマザーズオーケストラとして2014年に発足しました。室内楽シリーズとしては第6回目の開催となります。弦楽器ならではの響きやアンサンブルを楽しんでいただけらと思います。

最後になりましたが、本公演開催にあたり、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げますとともに、今後も変わらずご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

Mumuse 団員一同

次回公演

「オーケストラマミューズによろこそ」
(親子で楽しむコンサート)

【日時】2021年11月7日(日)13:30 開演

【場所】鎌倉芸術館小ホール

【曲目】「ピーターと狼」ほか

*公演の詳細はホームページをご覧ください。



オーケストラマミューズ
ホームページ

Mumuse Orchestra

音大出身者による
マザーズオーケストラ
室内楽シリーズ Vol.6

オーケストラマミューズメンバーによる

弦楽アンサンブルの夕べ

2021 9/10 (金) 18:30 開演

かなっくホール 神奈川区民文化センター

<主催>マミューズ

文化庁
コロナ禍を
乗り越えるための
文化芸術活動の
充実支援事業

